

# おおぞらだより

第13号  
平成26年 5月 31日発行  
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団  
おおぞらのいえ  
〒651-2181  
神戸市西区曙町1070  
TEL (078) 927-2727 (代)  
FAX (078) 925-9253



毎日幼稚部楽しいです。  
外に行ったり、体育をしたり  
しています。  
外にいっぱいいきたいです。

頑張ります！  
学校大好き♡

中学部では数学を頑張ります。



高等部では音楽を頑張りたいです。  
毎日バスで登校できて楽しいです。

高等部では、自分で出来る事は自分で  
したいと思います。

学校でパソコンを頑張りたいです。毎日終わりの会に自分がその一日の時間割と何をしたらか打っています。



## 『ワクワクの学校生活』

4月9日(木)におおぞら分教室の入学式がありました。みんなスーツに身を包み、少し緊張した様子で式に参加していました。

高等部は、今年からのじぎく特別支援学校の本校に通学することになり、毎朝7時10分分のスクールバスで登校しています。毎朝早くから起きて元気に登校しています。

みんな新たな学年になり、お兄さん、お姉さんの顔になっていました。

## 『みんな大好きお散歩』



支援員 松本 優紀

ぽかぽか陽気の中、近くの公園へ出かけました。年少組は滑り台を満喫!!笑顔がはじけました。年長組はその様子を微笑ましく眺めています。



## 『職員ペット自慢』

今号は職員の癒しでもあり、かわいい家族でもある、ペットを紹介したいと思います。

支援員 茶谷 卓明

一緒に暮らしているネザーランド種のカメです。帰ってくる時間が分かるのか、ドアの前で出迎えてくれます。



支援員 末廣 博子

我が家には、カメが4匹います。20年前に何か生き物を飼おうとホームセンターへ行った時に「これだ!!」と思ったのがカメでした。最初は1匹だけ飼っていました。最初は1匹だけ飼っていたのですが、ホームセンターにカメを見に行く度に数が増えていききました。4匹のカメにはそれぞれ名前をつけています。カメたちも自分の名前を分かっているような気がするのには私だけでしょか? カメは万年生きると言われていました。これからも大切に育てていきたいと思っています。



## 『職員紹介』

新たなメンバーを迎え、職員も心機一転!!

笑顔をやさしく頑張りたと思います。よろしくお願ひします。

支援員 中山 実代子



社会人(年生)の迷惑をおかけすると思ひますが、早く慣れていけるように頑張りるのでよろしくお願ひします。

支援員 松岡 実樹



子どもたちの満面の笑顔にいつも癒されています。子どもたちの笑顔がもっと増えるように支援していききたいです。

## 浜坂温泉保養荘



今が旬の「ホタルイカ!」



温泉と  
美味しい食事で  
のんびり。ゆったり。

写真は夏会席の一例  
1泊2食¥6,450より(平日60歳以上2名利用)

☎(0796)82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775

保養荘の詳細な案内はこちら→<http://www.hamasaka-ni.com/>

## 『編集後記』

おそろだだより13号が出来上がりました。新年度がスタートし、変わらずおそろのいえには、子供たちの素敵な笑顔と笑い声があふれています。

今後子供たちのいろいろな姿を載せていきたいと思ひます。次号もぜひ楽しみにしてください。

## 『おともだちパワー』

支援員 中尾 有里佳

平成20年5月におおぞらのいえ児童デイサービスが開設し、はや6年が過ぎました。平成24年4月にはおおぞらのいえ児童発達支援事業所と名称を変更しています。平成20年に入所した1番年上のお兄さん、お姉さんは現在、4年生!!元気に学校に行っています。

4月18日には入所式があり、新しいお友達が増えました。いつもとは違う雰囲気戸惑っているお子さんもいましたが、『入所式』の看板の前で記念写真を撮っている姿を見ると、新しい一年がスタートしたことを実感しました。

当事業所は母子分離で、未就学児が対象です。今までずっと一緒に過ごしてきた大好きなお母さんと離れることは、お子さんにとっては大きな、大きな一歩です。最初は不安で泣いていたお子さんも、お友達が楽しそうに遊んでいる姿に誘われて、少しずつ笑顔が見られるようになります。「一緒に遊ぼう。」というお友達からの声かけや、「ぼくもやってみたい!」「わたしもできる!」という思いが力となって、今ではお母さんに「いってきます。」と元気に伝える姿も見られるようになりました。

また、以前からおおぞらのいえを利用されているお子さんも、新しい環境に戸惑うことがあります。3月まで一緒に遊んでいたお友達が、幼稚園や小学校に行ってしまう、不安な表情をしていることもありました。しかし、その中でも泣いているお友達に優しい声をかける姿を見て、大きな成長を感じます。おともだちパワーはすごい!おともだちって素敵!職員も負けないよう、より良い支援を目指して努力していきたいと思っています。



※写真の掲載については、保護者の承諾を得ています。



## 飛躍への新たなスタート

障害児入所施設 おおぞらのいえ  
所長 謝 世業

梅雨に栄える紫陽花の存在感が際立つ季節となりました。ついこの前まで、入学や進学などあわただしかった頃を思うと、今は静かな時が流れているようです。

「おおぞらのいえ」も新しい年度を迎え、開設7年目となりました。皆様には、日頃、「おおぞらのいえ」の運営にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

新年度を迎え、新しい職員体制でこれまで以上のサービスが提供できるよう、取り組んでいます。

また新たに幼稚部・小学部・中学部そして高等部にそれぞれ入園、進学そして入学した利用児童は、入学当初の緊張からは一変し、今はいつもの屈託のない笑顔振りまっています。年度替わりのこの時期の慌ただしさも一服の感があります。

さて、併設の「のじぎく支援学校おおぞら分教室高等部」は昨年度末をもって廃止され、今年度から高等部に入学の利用児童3名は、「のじぎく支援学校高等部」に通学しています。

朝7時10分頃、出発のスクールバスに間に合わせるため、高等部生徒両名は準備で大変ですが、決して慌てることなく、どっしりと構えている姿に、落ち着きを感じられ、他の利用児童から一目置かれる存在へと変化しているようです。

そして、確実に成長している姿を見させていただき、職員一同感激すると同時に、障害を乗り越え、自らの可能性を追求している姿に、これまで以上に声援を送りたいと思います。

定員20名の小規模な施設ではありますが、「おおぞらのいえ」が、多くの障害児にとって拠り所となるよう、そして利用児童の日常生活および社会的な自立をめざし、一人ひとりのニーズに基づいた自己実現を追求していきたいと思えます。

次に児童発達支援事業では、就学前の障害児を対象に、日常生活動作の習得や集団生活への適応に必要な療育を実施し、個別支援計画に基づいた（集団訓練・個別訓練）に取り組み、多くの方に利用いただいております。母子分離や集団生活への適応性、地域の小学校や幼稚園等への就学・或いは就園へのニーズに応えられるよう取り組んでいます。地域の資源や機能そして機関と連携しながら、一人ひとりが抱える課題解決のための支援を強化していきます。その他、日中一時支援等、きめ細やかなサービスにも努めてまいります。

今年度は運営母体の「兵庫県社会福祉事業団」は設立50周年にあたり、また「総合リハビリテーションセンター」は設立45周年を迎えます。

このような重要かつ、節目の年を迎え、「おおぞらのいえ」は、利用児童一人ひとりがキラキラと輝き、笑顔に満ち溢れ、お子様お一人おひとりの「心を育む」という願いをもとに、安全で、安心なすばらしい施設づくりを、職員一同、力をあわせて取り組んでまいります。今後ともご理解、ご協力をお願いします。